

救命救急におけるリハビリテーション

Rehabilitation in critical care

急性期病院の入院期間の短縮が求められるなか、救命救急の分野における早期リハビリテーション介入の重要性が高まっている。本特集では、高度救命救急センターをもつ基幹病院で実際に救命救急におけるリハビリテーションにかかわっている専門家に、各方面からの解説をお願いした。

高度救命救急センターにおけるリハビリテーションの

現状と課題 皿田和宏氏ら 583

広島大学病院の救命センターの現状と理学療法士専従システムを紹介し、重症救急患者に対するリハビリテーション介入効果や多職種連携のための取り組みを説明し、重症救急患者に対する早期リハビリテーションを安全に実施するための文化や制度の構築の必要性、リハビリテーションスタッフの教育と多職種連携を促進するための教育などの課題と今後の展望について解説している。

救命救急患者に対するリハビリテーション処方 新見昌央氏ら 591

救命救急患者の多くは重症疾患を有し、しばしば複数の併存疾患を伴う。そのため全身状態が不安定で人工呼吸器、体外循環回路、高用量の血管作動薬が使用されていることも多い。本稿では、高い安全性が求められる救命救急患者に対して、急性期からリハビリテーション処方を施行する際に、注意すべき点、リスク管理、リハビリテーションの中止基準などについて解説している。

ICU-acquired weakness の予防と治療方針 蜂須賀明子氏ら 597

敗血症など重症疾患（critical illness）による治療で集中治療室（intensive care unit；ICU）へ入室後、急性に左右対称性の四肢筋力低下を呈する症候群がICU関連筋力低下（ICU-acquired weakness；ICU-AW）として知られる。しばしば抜管困難や離床困難に陥り、患者の日常生活動作や生活の質を低下させることから、適切な診断や治療が必要である。本稿では、ICU-AWの疾患概念、診断、予防や治療について解説している。

肺理学療法と廃用症候群へのアプローチ 堀部達也氏 605

過去 20 年、敗血症などの重症疾患により集中治療室で人工呼吸管理を行った患者の生存率は大幅に改善している。しかし、死亡率の低下とともに、近年では ICU 入室後 6 か月～5 年間の身体機能や生活の質などの長期のアウトカムが評価されるように変化している。その理由として敗血症などの重症疾患の生存した患者に ICU-AW や集中治療後症候群（post intensive care syndrome; PICS）と呼ばれる患者の退院後の生活、そして QOL などを脅かす現象が明らかになったことが挙げられる。本稿では、大学病院における肺理学療法と廃用症候群へのアプローチの実際が紹介されている。

救命救急における摂食・嚥下へのアプローチ 松浦尚子氏ら 617

救命救急の現場において初期から言語聴覚士が摂食・嚥下障害のリハビリテーションを行うことはそれほど多くはない。しかし多くの患者がその時期はさまざまであるがいずれ口から食べることを検討される。特に長期人工呼吸管理後には嚥下障害を合併していることが多く、摂食・嚥下リハビリテーションの依頼も多い。長期人工呼吸管理後に多くみられる嚥下障害に対して、大阪府立急性期・総合医療センターにおいて行われている多職種アプローチの実際について症例を通して紹介している。

ニュース	「ノーマライゼーション 障害者の福祉」4月号・特集目次 589
	成年後見制度、利用促進計画を決定一チームで本人見守る（政府） 595
	5 資格合格発表—PT1 万 2,388 人など（厚生労働省） 595
	差別解消法施行されたのに……、同伴拒否、半数が経験—盲導犬協会が使用者調査 603
	教員の相談 14 万件超—支援学校「機能」の調査（文部科学省） 603
	手動車椅子、足乗せ板に注意を—皮膚損傷など事故（消費者庁） 622
	障害差別、過去最多—人権救済の相談で（法務省） 628
	障害分野の書庫開設—きょうされん内に（東京・中野） 628
	配食サービス、ガイドライン普及へ—厚生労働省、介護公表制度の活用促す 636
	障害者教育で新指針—配慮要る全児童を支援（文部科学省） 661
	在籍者 6%に医療的ケア—特別支援学校を調査（文部科学省） 661
書評	実践にいかす歩行分析—明日から使える観察・計測のポイント（評者：山本澄子） 615
	生きている しゅみがわかる 生理学（評者：鈴木敦子） 636
お知らせ	第 47 回日本創傷治癒学会（同時開催：第 12 回癬痕・ケロイド治療研究会） 642
	第 7 回関東地区小児整形外科ベーシックコース講習会 650
	第 3 回東京都総合高次脳機能障害研究会 650
	2017 年度 発達に気になる子の育ちを考える夏季セミナー 667